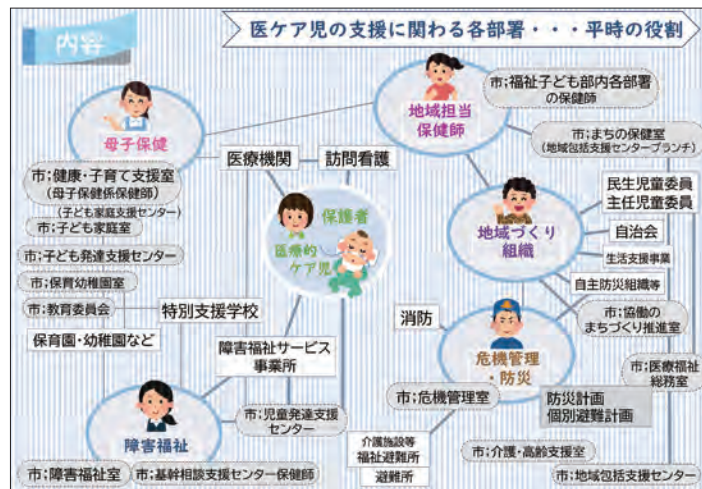


**医療的ケア児が地域で当たり前の暮らしができる
ように支援する多職種ネットワーク活動**
—在宅で医療的ケア児を育てる家族の災害対策を一緒に考えよう!—

宮崎 つた子 ●三重県立看護大学 地域交流センター長 小児看護学 教授



医療的ケア児に関わる各部署（三重県名張市）

要 旨

近年、医療的ケアが必要な子どもに関して、様々な社会福祉サービスで一定の保障がされるようになってきたが、まだ対応困難なことが多くある。その一つが災害対策である。本活動では、1) 地域で行われているモデル活動の公表、2) 研修会や講演会を開催し、災害時を想定した物品などを紹介、3) 家族の交流会等を通して災害対策等の情報を共有、4) ボランティアの育成を行った。

これらの活動を通して、医療的ケア児の家族が災害時に地域住民や専門職を頼り、共に災害対策を考えるきっかけとなった。また、講演会や研修会で地域住民に医療的ケア児とその家族を知ってもらい、災害時等には、住民の支えが重要であるという意識の醸成につながった。

地域医療貢献のポイント

在宅で医療的ケア児を育てる家族の災害対策の検討には、多職種が連携を強化していくことが重要である。また、医療的ケア児が地域で当たり前の暮らしができるように支援するネットワーク活動は、地域住民への意識の醸成の一助となる。

1. 取り組みの目的と方法

われわれは、医療的ケア児が地域で当たり前の暮らしができるように、多職種・他機関のネットワークを広げていく活動を行ってきた。近年では、医療的ケアが必要な子どもに関して、様々な社会福祉サービスがされるようになってきたが、災害対策など、まだ対応困難なことが多い。本活動は、地域住民と専門職が共に、医療的ケア児を育てる家族の災害対策を具体的に取り組む重要性を見出す目的で、①地域のモデル活動を保健師や多職種と連携して整理し社会に公表、②バリアフリーコンサートを開催し、災害時を想定した物品などの紹介、を行った。

2.現状の成果・考察

1) 地域で行われているモデル活動からの
検討：医療的ケア児とその家族の具体的な
防災対策を三重県名張市の行政や専門職と
検討し、モデル的な取り組みとして整理し、
社会に公表した。さらに、これらの内容を多
職種の勉強会および交流会で報告し、他市
町に新たな知見を提供できた。

2) 研修会や講演会の開催：医療的ケア児と



コンサート受付



医療的ケア児と家族がコンサートを楽しんでいる風景

その家族が地域住民と共に参加できるバリアフリーコンサートを開催した。これらは、社会に医療的ケアが必要な子どもと家族を知ってもらう機会となった。また、その会場内で災害時に備える物品などを展示することで、家族や支援者が災害対策の情報を共有し、災害時の準備や災害対策等の情報の共有と意識の醸成につながった。

3) 家族の交流会支援：家族同士の交流を深め、地域での孤立感の軽減を図り、災害対策等の情報を共有する機会を提供した。

4) ボランティアの育成：研修会・交流会で医療的ケア児とその家族の生活を知る機会になり、医療・福祉・教育関係の学生ボランティアの育成、学びにつなげた。

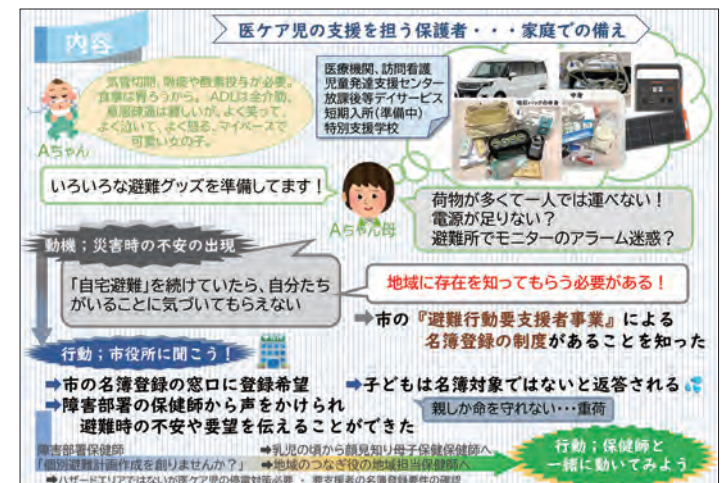
本活動を通して、地域の医療的ケア児とその家族に対する防災対策の取り組みについて、保健師を中心とする多職種で整理を行い、モデル的な取り組みとして社会に公表できた。これらは、他市町が医療的ケア児とその家族に対する地域の災害対策を考



災害時の必要物品の説明



医療的ケア児に関わる各部署の平時の役割



医療的ケア児の災害対策（家庭での備え）

える一助になったと考える。また、講演会や研修会を通して、地域住民に医療的ケア児とその家族を理解してもらえる機会となり、災害時には近くの住民の支えが重要であるという地域住民の意識の醸成につながった。

3. 今後の展望

本活動から、在宅で医療的ケア児を育てる家族の災害対策では、平時から地域住民と専門職が、共に具体的な対策を一緒に取り組む重要性を見出すことができた。今後は、これらの知見を活かして、医療的ケア児が地域で当たり前の暮らしができるように、多職種のネットワークを広く浸透していきけるように活動を行っていきたい。